

第3回 大分県高大連携シンポジウムを開催しました

第3回大分県高大連携シンポジウム「高校教育と大学初年次教育の実質的接続をいかに進めるか」が2月17日に、本学経済学部101号教室会場にて開催されました。今回は本学経済学部が2008年度に文科省に選定された教育GP「学問探検ゼミを核とした高大接続教育」の集大成目指し、大分県教育委員会と共催して行われました。

当日は年度末の多忙な時期にもかかわらず、県内外の大学・高校の先生方、本学学生・教職員を中心に120名の参加者がありました。

司会は本学経済学部4年生の栗野恵里佳さん、コーディネーターは宮町良広学長補佐が担当しました。

はじめに、羽野忠学長から本学の高大接続事業が社会のニーズに応えるため大学教育において果たす役割が大きいこと、また次年度から全学的取組に発展しようとしていることが紹介されました。次に、大分県教育委員会 南雅量教育次長から高大連携の役割と高大接続テストの必要性が述べられました。

その後、関西国際大学学長・中央教育審議会専門委員 濱名篤氏による基調講演「高大接続を考える～教育接続と初年次教育～」が行われました。講演では、多様化した高校教育と大学全入時代を迎える中で生じたアット・リスク学生の増加と大学の質保証に伴う高大接続テストの問題についての分析と提言が行われました。高校教育については多様化が限度を超えており、基礎的教科・科目の未履修が今日の基礎学力低下の要因になっていることを指摘され、高大接続に向けて客観的・多面的な学力把握が一層必要になることが述べられました。また、アメリカをはじめとする世界の教育界の取組状況が紹介され、世界の高大接続の潮流と我が国の大学入試の乖離した状況を様々なデータで指摘され、本学にとっても極めて示唆深い講演となりました。

後半は高大教員と学生の立場から見た高大接続教育の取組報告が行われました。本学の甲斐隆文特任教授からは「高大接続に係る導入教育～高大接続学習と数学基礎～」、また大分県立安心院高校の佐藤茂教諭からは「小中高一貫教育と高大接続教育」、最後に宮町学長補佐から「学問探検ゼミ」の紹介が行われた後、本学経済学部2年の中村春菜・並松薫恵・村上祐樹さん等による「学生から見た高校教育と大学教育」についての報告が行われました。それぞれ、本日のテーマである実質的な高大接続を続けていくための具体的な取組報告になりました。

続いて行われた意見交換では宮町学長補佐をコーディネーターとして、「高大接続を実質進めるためのポイント」と「学生目線に立った教育のあり方」について、下田経済学部長を加えた7人のパネラーから意見が述べられた後、会場との意見交換が行われました。

最後の大嶋誠副学長のあいさつでは、高大連携が高大間の相互理解に繋がるとともに学士教育の見直しに繋がる可能性を秘めていることが述べられ、今後の大分県における高大接続の展開を考えるうえで意義深いシンポジウムとなりました。

シンポジウム後のアンケート調査では、基調講演の内容はほぼ興味あるものだった(97%)、3つの取組報告は総じてほぼ興味あるものだった(92%)、パネル討論の質疑応答はほぼ関心の持てる内容だった(86%)、総合的に判断して今日のシンポジウムはほぼ良かった(97%)、シンポジウムの開催時期はほぼ良い(82%)などの結果が確認されました。



基調講演（関西国際大学学長・中央教育審議会専門委員 濱名篤氏）



パネルディスカッション